

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校での防大特別講義を支援

自衛隊神奈川地方協力本部横浜出張所（所長 田中義剛3等陸佐）は、7月4日（木）横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校において実施された防衛大学の田中宏明教授による特別講義を支援した。

防衛大学校では、人文社会科学から理工学の幅広い分野において、高等学校のニーズに合わせた特別講義を同大学校教授等が学校に出向いて行っており、昨年に引き続き横浜サイエンスフロンティア高等学校からの依頼を受け実施された。

当日は約15名の生徒が受講し、田中教授は「宇宙開発の基礎と宇宙ゴミの脅威」について、なぜ宇宙ゴミが急激に増えているのかや、宇宙ゴミの危険性等を実験結果と照らし合わせながら講義を行い「航空宇宙工学について、もっと知りたい」という生徒達の好奇心を醸成した。

また受講後に生徒からは「防衛大学校について、もっと話を聞いてみたい」との声を聞く事ができた。

横浜出張所では、「今後も高等学校等と良好な関係を築き、防衛大学校の魅力を伝えつつ、自衛隊等の活動について理解の深化を図るよう努めていきます」とコメント。



防災意識を高めよう

自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 荒木3陸佐）は、8月21日（日）横浜市金沢区で実施された「横浜市総合防災訓練」に参加した。

訓練は「実働訓練会場」と「啓発・展示会場」の2つの会場で行われ、『実働訓練会場』では震度7の地震が発生し倒壊家屋等が生起しているという想定で行われ、横須賀市に所在する第31普通科連隊が偵察隊を派遣して倒壊家屋の中に要救助者を発見し、主力部隊が警察や消防と連携して救出するまでの行動を展示した。

『啓発・展示会場』では上大岡募集案内所が市民の方々の防災意識向上を目的に災害派遣映像の放映やパネル展示の他、災害現場等に携行するレトルトパウチ型の『戦闘糧食II型』の展示等を行った。

展示会場へ訪れた人は「実際に避難所での生活経験はないが、そういう時のために備えたいと思って参加しました」と実際に、東日本大震災での災害派遣を経験した広報官から熱心に話を聞いていた。

上大岡募集案内所は「自衛隊では来るべき災害に備え平素から地方公共団体等との連携の強化に努めている。これからもこのような機会を通して、自衛隊の活動を知っていただくよう努めていきたい」としている。

